

経営学科

福山平成大学
経営学部

NEWS LETTER

芦田川「かわまちづくり」の企画に取り組みました

地域の課題を学ぶ実践的授業

経営学科では、学生が自ら課題を見つけ解決する力や、他者と協力して取り組む協調性・コミュニケーション力を身に付けるため、課題解決型の授業を行っています。

基礎演習Ⅱの授業では、新市地区かわまちづくり委員会を代表して貝原祥之氏・伊豆田浩央氏に、地元福山（新市町）の歴史、産業、地域が抱える課題についてお話しいただきました。さらに、まちおこしの一環として芦田川河川敷を活用したまちづくりについて説明していただきました。

まちづくりを学生が提案

学生たちはまず他地域の事例を調べ、その後クラスごとに、福山らしい河川敷活用の企画を立案しました。

発表当日には、新市地区かわまちづくり委員会や福山市役所関係者の方々が多数来学され、さらに地元テレビ局の取材も入りました。普段とはまったく異なる雰囲気の中で、学生たちは自分たちの企画を発表しました。

例えば、託児所併設のカフェ、夜間ライトアップ、新市限定ポイントアプリ、備後餅を使った巨大鯉のぼりを川に浮かべる企画、サバイバルゲーム会場の設置など、地域活性化につながるさまざまなアイデアが提案されました。

発表では関係者の方々から具体的な質問を多く寄せられましたが、学生たちは自分たちの考えをしっかりと説明していました。



地域のまちづくりに取り組む方（写真左：貝原祥之氏、写真右：伊豆田浩央氏）から、福山（新市町）の課題について直接お話しを伺いました。学生からは、地元のことを知ることができたとの感想がありました。



9クラスの学生が、芦田川の新しい活用アイデアをプレゼンしました。学生の発表の様子は地元テレビ局にも取材されました。



関係者を代表して伊豆田浩央氏に講評をいただき、学生の企画が参考になったとのことのお言葉をいただきました。

学生にとって、地域の方々と交流しながら、実際のまちづくりを学ぶ貴重な機会となりました。